

- ▶ 県土の77%（36万ha）が森林である和歌山県は、昔から「紀州木の国」といわれ、温暖多雨な恵まれた自然環境の中で生長した「紀州材」を生み出す林業地であり、県内のみならず各地で「紀州材」は利用されています。
民有林では、スギ、ヒノキを中心とする人工林が21万haで、人工林率が61%と全国平均41%を大きく上回っています。また、人工林の年間成長量は90万m³あり、資源構成は11齢級（51～55年生）の林分が最も多くなっています。木材等生産機能と地球温暖化防止機能の発揮の観点からは、これらの成熟した森林資源を伐採し、利用した上で跡地に再造林を行う「若返り」が求められています。
一方、1万6千haある国有林の大部分は、紀北・紀中・紀南の各流域の水源地帯に散在しながら位置しており、国土保全、水源涵養等の公益的機能の発揮に寄与しています。また、高野山、権現山、那智山等の国有林は、世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」のコア及びバッファゾーンとなっており、歴史的経緯及び文化的背景を踏まえた森林景観の保存・管理を行っています。
- ▶ 和歌山県との地域林政連絡会議を、平成29年6月と平成30年2月に開催。平成29年度と平成30年度に向けての民国連携の取組、低コスト造林の推進、シカによる獣害対策を重点に意見交換を行いました。今までと同様に情報交換・共有を行い、フィールド提供等により地域課題の解消に取り組みます。
- ▶ 国有林・官行造林が所在する市町村の地域課題や共通課題の把握にあたっては、国有林野等所在市町村長有志協議会等の各種会議の場を活用しながら幅広い情報収集を行っており、課題解決に向け連携した取組を展開しています。



（和歌山県との地域林政連絡会議の様子）

鳥獣被害対策の推進

【課題】 シカによる被害拡大の防止（継続）

【取組状況】

- シカ被害対策については、防護だけでなく捕獲と併用へ。和歌山県が行う夜間銃猟に、国有林をフィールドとして提供。
- 誘引捕獲用の餌（ハイキューブ）や囲いワナ等の捕獲機材を購入。国有林内でハイキューブによる誘引捕獲を実施。
- 防護については、効果的で低コストとなる防護柵（立木利用、斜め張り等）を、一部箇所において実施。
- 治山緑化箇所の食害防止の取組みとして、竹を利用した進入防止工法を施工し、その成果を近畿中国森林管理局と林野庁で発表。

【成果と今後の課題】

- 夜間銃猟について、田辺市の前の川国有林で実施。平成30年度も、国有林での実施に協力していく。
- シカ捕獲について、各国有林において、誘引及び捕獲を繰り返して行い、被害を軽減していく。
- 今後も、職員によるシカ捕獲に向け、地元猟友会に協力を得ながら進める。
- 平成29年11月、近畿中国森林管理局と林野庁でそれぞれの研究発表会があり、竹を利用した進入防止工法（右の写真）と、くくりワナでの捕獲技術（左の写真）が評価され、近畿中国森林管理局局長賞と林野庁長官賞を受賞。今後も、捕獲と防護の技術開発に取り組み。



（くくりワナの一例）



（くくりワナの周りにハイキューブを置いて誘引し捕獲）



（箱ワナに入ったシカの様子）



（治山緑化箇所での食害防止の取組）

森林共同施業団地の取組

【課題】 森林共同施業団地における民国連携の推進（継続）

【取組状況】

- ・ 美山地区共同施業団地内の林業専用道の作設に向けての準備、委託によりシカフナでの捕獲を実施。
- ・ 田辺市美しい森林づくり推進協定は、協定者間において路網の相互利用や効率的な路網整備等により、地域の森林・林業の活性化に寄与。
- ・ 三重森林管理署、奈良森林管理事務所と共同で、林務担当者や林業事業者等を対象にした現地検討会を三重県内で開催するため、現地確認等を実施。

【今後の課題】

- ・ 美山地区共同施業団地について、路網作設予定と効率的な利用等を、十分疎通しながら進める。
- ・ 平成30年度に三重県内の国有林において、森林共同施業団地での取組をテーマに現地検討会を開催予定。



（美山地区運営会議の様子）

治山対策の推進

【課題】 民有林・地域と連携した治山対策の推進（継続）

【取組状況】

- ・ 平成23年9月の台風12号による紀伊半島大水害において、特に荒廃状況が複雑で高度な技術を要し復旧規模が大きい、田辺市の本田垣内、愛賀合、上平治川、菖蒲谷、八升前、下も谷西側の6区域の復旧治山対策について、国が直轄で行う民有林直轄治山事業として実施。
- ・ 平成25年4月、紀伊田辺治山事業所開所。田辺市、和歌山県、国が一体となって災害の復旧に取り組む。
- ・ 平成29年度、新たな崩壊地への対応として、上秋津区域を追加実行。

【成果と今後の課題】

- ・ 平成26年度には菖蒲谷区域の工事が完了。
- ・ 平成29年度は、各区域において渓間工、山腹工の復旧事業を行い、崩壊や土石流の発生を抑制し流域を安定した状態に保ち、自然災害の再発を防止。
- ・ 平成30年度には八升前区域の工事が完了予定。
- ・ 今後も地元の要望等を取り入れながら災害復旧に取り組む。



（上秋津区域で地元説明会の様子）



（インドJICA現地案内の様子）

低コスト造林の推進

【課題】 民有林への低コスト造林の普及（継続）

【取組状況】

- ・ 坂泰山及び高野山国有林において、伐採から造林まで行う一貫作業の請負事業を実行。

【今後の課題】

- ・ 一貫請負事業について、データ収集を行い低コスト造林の成果を検証し、低コスト造林の推進を図っていく。
- ・ 民有林への低コスト造林の普及に向けて、関係機関と連携しながら国有林のフィールド等を活用し、コンテナ苗の植栽や一貫作業システムの取り組みを進める。



（八升前区域の施工状況）



（愛賀合区域で高校生職場体験の様子）